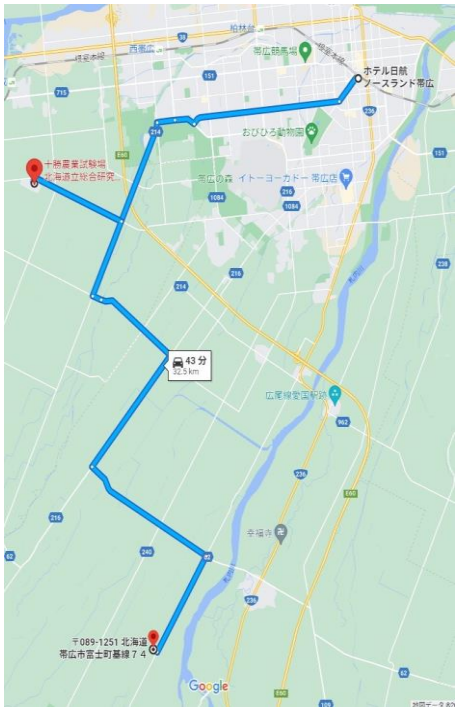
令和５年度豆類需給安定会議、令和５年度豆類産地懇談会
第６９回豆類生産流通懇談会の開催について

豆類の生産･流通･加工等に関係する者が一堂に会し､主産地十勝の作柄を調査するとともに、今後の豆類の需給状況に関する情報・意見を交換し、道産豆類に対する理解をより一層深め、豆類の生産･流通の安定と消費の維持･確保を図ることを目的として､(公社)北海道農産基金協会、全国豆類振興会及び北海道豆類振興会の３者の共催により、令和５年度豆類需給安定会議、令和５年度豆類産地懇談会、第６９回豆類生産流通懇談会の合同会議が９月６日（水）に北海道帯広市で開催されました。

１　現地作況調査

会議の開催に先立って､まず､午前中に十勝農業試験場（芽室町）及び帯広市のほ場で小豆、大豆、手亡及び金時の生育状況の現地調査が４年ぶりに実施され約４０名が参加しました。



（１）十勝農業試験場（小豆、大豆、金時、手亡）
（２）帯広市富士町　中井氏ほ場（小豆、大豆）

今回の調査では十勝農試ほ場を視察し、担当研究員から説明を受けました。また、中井氏ほ場では、十勝農業改良普及センターの担当者から作柄の説明を受けました。

２　合同会議

午後からは、ホテル日航ノースランド帯広において、合同会議が開催され、豆類の生産・流通・加工業界・行政・試験研究等の関係者は約７０名が出席しました。

（1）　来賓挨拶

主催者挨拶の後、来賓の農林水産省農産局穀物課佐々木課長補佐から挨拶がありました。また、「小豆をめぐる現状・課題と対応方向」として、小豆の需給や生産の動向、農林水産省の支援策などについて説明がありました。

（2）話題提供

豆類の生産、輸入、試験研究を担当されている３名の方から話題提供が行われました。

①　ホクレン農産部松村雑穀課長から本年産の道産豆類の生育状況等について「本年は高温で推移し、降水量は少なく日照時間は平年以上を確保できたが、粒の大きさは平年より若干小粒傾向」、「道産小豆の消費量は前年並みで推移している」との説明がありました。

②　雑穀輸入協議会甘糟副理事長から「大豆・コーン等の主要穀物の価格高騰の影響で雑豆の生産意欲が減退し、世界の雑豆生産面積が減少している。小豆の主な輸入先であるカナダ産の輸入が減少する一方、中国小豆の輸入が前年より増加している。日本向けカナダ小豆の 23 年産数量は問題ない。」など、小豆、白系いんげんや手亡などの海外主要輸出国の本年産の状況についての説明がありました。

③　十勝農業試験場豆類畑作グループ堀内主査から小豆のコンバイン収穫適正を向上させた、新品種「きたいろは」の紹介や、「小豆についてはコンバイン収穫適性や加工適性の向上、病害抵抗性の強化など、菜豆については収量性や病害抵抗性、農業特性の向上などの育種目標について取り組んでいる。」との説明がありました。

（3）基調講演

横浜国立大学張准教授、東京大学田嶋名誉教授から「中国における雑豆事情」について、講演を頂き、その模様は ZOOM 方式により同時並行で配信されました。

（4）意見交換

基調講演の内容を踏まえ、佐藤久泰氏をコーディネーターとして「海外の雑豆事情を踏まえた今後の対応について」をテーマに意見交換が行われました。

意見交換で出された主な意見は次のとおりです。

・　小豆では国産を優先する事業者と輸入品を優先する事業者の棲み分けが出来ている。国内

産の安定供給が価格の安定と安定的需要の確保につながる。

- 小豆の輸入に関して、カナダ産はほぼ契約栽培で行っているが、中国に関しては商習慣の違いなどもあり、契約栽培の導入は厳しい状況。
- 原料高、資源価格の高騰などにより、製品価格も値上げせざる得ない状況で、商売として厳しい環境にある中、商品の価値を高め消費者に認めてもらって購入して頂くことが、加工事業者に求められている。
- 金時の加工製造設備を活用して小豆を原料とした商品開発を進めている。
- 今年の北海道はかつて無いほどの猛暑。豆の作り方や品種改良も少し違った時代になる。小豆は内外価格差が縮小している今こそ、北海道産、十勝産に関心を持って利用して頂きたい。
- コンビニには小豆あんを使った和菓子やバターやクリームと合わせたお菓子が多数売っている。これらの商品は若者に豆文化、あん文化に親しむ第一歩となる。
- 和菓子や様々なお菓子にあんが多く使用されているが、人手不足や職人不足などの影響で、製あん所とお菓子屋さんで分業が進んでいる。新商品の開発などで新たな需要を拡大することが重要。
- 観光需要の回復でお土産菓子の需要が順調に回復しているが、原材料が高騰している中、出来るだけ安価で品質の良い原料を顧客に提供出来るよう努めている。
- 小豆の需給安定を図るには安定的な生産が必要。生産量が変動しても作付面積を一定水準に維持することが重要。
- 豆類の消費拡大のためには、新しい和菓子など新商品開発など利用拡大を図ることが重要。
- 小豆は豊凶差によって価格が変動する。契約栽培の導入によって安定的な生産が可能となった。再生産可能な価格での取引継続が重要。生産者と利用者のウイン・ウインな関係構築が大切。